

熱・電気物性測定の落とし穴

Pitfalls in thermoelectric measurements

主催：9.4 熱電変換, 合同セッションMフォノンエンジニアリング

日時：3月13日（金）13時30分より17時30分(予定)

場所：上智大学四谷キャンパス ※一般講演も受け付けます

循環型社会・エネルギーハーベストなど、新エネルギーとしての熱電変換の研究は大きな注目を集めています。エネルギー変換効率を決定する性能評価において、電気物性測定時にはペルチェ熱の駆動をどのように制御するのか、熱物性測定時には熱リークを如何に抑制するかなど、十分な検討が必要となります。

本シンポジウムでは、熱・電気物性測定に長けた装置メーカーの技術者と独自の計測手法に熟知した研究者を講師として招き、成功体験だけでなく、一般的に報告されない自らの失敗を共有することを目的としています。

多くの皆様のご来場をお待ちしております。

講師(敬称略)	講演内容
舟橋 良次 (産総研)	等しく測って、正しく使おう
池内 賢朗 (アドバンス理工)	ZEMシリーズの状況と 熱量測定の基礎
朝倉 浩貴 (東陽テクニカ)	ResiTest:比抵抗/ホール測定 システムによる物性測定
上村 彰 (日本カンタムデザイン)	物性測定システム (PPMS)による 熱電評価
天谷 康孝 (産総研)	トムソン効果を用いた ゼーベック係数測定
阿子島 めぐみ (産総研)	レーザーフラッシュ法による 熱拡散率・熱伝導率測定
塩見 淳一郎 (東大)	サーモリフレクタンス法による 熱伝導率測定
宮崎 康次 (九工大)	3 ω 法による熱伝導率測定